記者説明会資料

平成 16 年 4 月 7 日
独立行政法人 国民生活センター

ベビーカーの安全性

1. 目的

ベビーカー(乳母車)は、乳幼児のいる家庭にとって、外出時には欠かせない商品となっている。

PIO-NET(全国消費生活情報ネットワーク・システム)の危害情報システムには、「散歩中、あやまってベビーカーより転落し頭を打った」、「ベビーカーが転倒し頭部打撲した」などの転落・転倒に関する事例や、「右手を前の取っ手の接続部に挟んだ」などの事故事例が、1998(平成 10)年度からこれまでに 311 件寄せられている(2003 年 11 月末日現在)。また、PIO-NET の消費生活相談システムには、「ベビーカーを 2 ヶ月使用したら、後部車輪が変形した」などの品質・性能に関する事例が寄せられている。

一方、ベビーカーは、対象年齢や構造、機能、使用形態などが異なる数多くの種類が売られており、消費者がどのようなものを選択すればよいのか難しい状況にあると思われる。また、従来、電車やバスを利用する際は、ベビーカーを折りたたんで、乗車するよう指導する交通機関が多かった。しかし、最近では、一部の交通機関で利用者の自己責任において、乳幼児が乗ったままでのベビーカーの乗車を可能とするところもあり、電車やバスを利用する際の注意が必要となっている。

そこで、乳幼児の転落事故防止用のシートベルトやベビーカーの転倒のしやすさについて調べるほか、手や指の挟み込みの危険性、電車やバスに乗車したときの安定性などの安全性に関わるテストを実施する。また、耐久性や持ち運びのしやすさなどの使用性についても調べ、消費者に情報を提供する。

2. テスト実施期間

検体購入：2003 年 9 月～10 月
実施期間：2003 年 10 月～2004 年 1 月

3. テスト対象銘柄

現在販売されているベビーカーの中から、国内シェアのほとんどを占める国内メーカー2 社のものを中心に、対象年齢や乗車姿勢のほか、背面・対面式など乗車した乳幼児の向きの違いなどを考慮して 4 社 8 銘柄を選定し、テスト対象とした。また、座席部を取り外して乗用車用のチャイルドシートとしても使用可能なものや、小さくたためて小型・軽量をうたっているものも参考品としてそれぞれ 1 銘柄加えた。

表1　テスト銘柄一覧

No.	座面の方向	シートベルト	銘柄名	型式	製造又は販売会社名		主な仕様				メーカー希望小売価格(円)
							姿勢	対象年齢	本体総重量	折りたたみ方	
1	背面・対面式	3点支持式	ﾄﾞｯﾁﾓﾀｰﾝ サーモマルチdeﾌｰﾄﾞ	A529	アップリカ葛西(株)	日本	寝る・座る	2ヶ月～満2歳	7.5kg	前後に折りたたまれる	52,900
2			iスルーEG	QS-529	コンビ(株)				7.3kg	前後に折りたたまれる	52,900
3			ﾈﾙｯｺﾍﾞｯﾄﾞ両対面 アイtoアイ サーモフルマモール	639	アップリカ葛西(株)				5.5kg	前後・左右に折りたたまれる	63,900
4	背面式		ｳｪﾙﾌﾗｯﾄ170° EG	SS-489	コンビ(株)				4.5kg	前後・左右に折りたたまれる	48,900
5			ｶﾙｯｺﾒﾃﾞｨｶﾙ8・3・7サーモ ｺﾝﾌｫｰﾄｼﾘｰｽﾞ	—	アップリカ葛西(株)		座る	7ヶ月～満2歳	3.9kg	前後・左右に折りたたまれる	49,900
6			ｵｰﾄｷｯｽﾞﾈｵEG	RS-469	コンビ(株)				4.2kg	前後・左右に折りたたまれる	46,900
7		5点支持式	ｷｯｺ ﾎﾟﾆｰXSﾌﾟﾗｽ	—	日本トイザらス(株)	イタリア	寝る・座る	2ヶ月～15kg	6.9kg	前後に折りたたまれる	13,999[注2]
8			ｸﾞﾚｺ ｺﾝﾊﾟｸﾄﾍﾞﾋﾞｰｶｰ	edt	(株)カトージ	アメリカ		0～36ヶ月	4.8kg	前後に折りたたまれる	25,800
9	参考品 背面式・対面式	3点支持式	ﾄﾞｩｷｯｽﾞ4EG (ﾁｬｲﾙﾄﾞｼｰﾄ兼用ﾀｲﾌﾟ)	AS-669	コンビ(株)	日本	寝る・座る	新生児～満2歳	7.3kg[注1] 5.0kg	前後・左右に折りたたまれる	66,900
10	参考品 背面式		ｱﾝﾌﾞﾚﾗｽﾄﾛｰﾗｰ かるいdeちゅ	—	(株)カトージ		座る	7ヶ月～満2歳	2.9kg	前後・左右に折りたたまれる	8,900

注1)　チャイルドシート装着時(対面式時)
注2)　購入価格

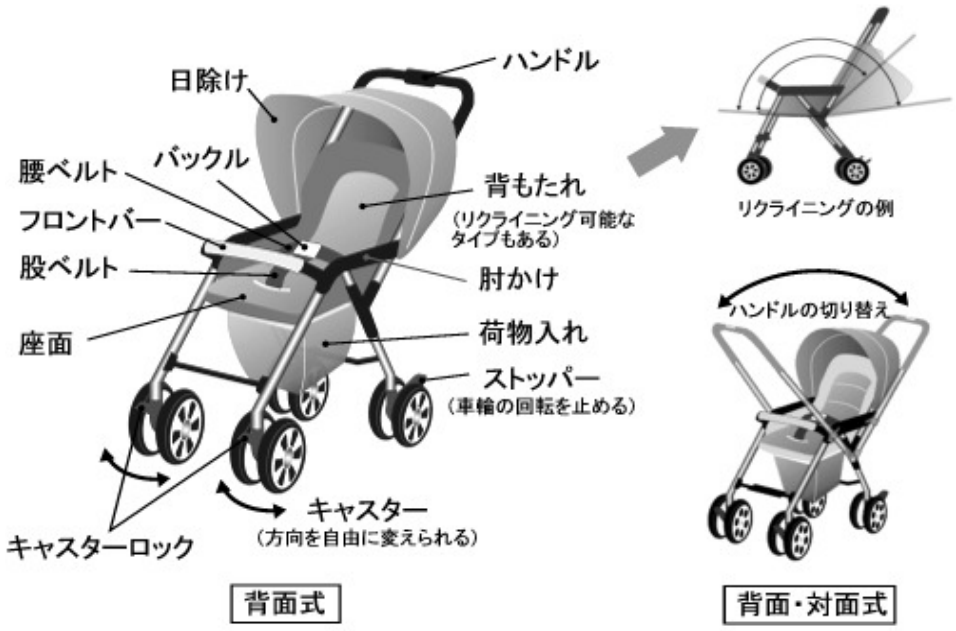


図1　構造と各部の名称

4. テスト結果概要

1) **シートベルトは、股・腰のみを拘束し上体が自由な 3 点支持式が多いが、転落防止のためには、股・腰・肩で上体を拘束する 5 点支持式が有効と考えられた**

乳幼児の転落事故が多いことから、転落防止のためのシートベルトについて 1 歳児ダミー人形(以下ダミーと呼ぶ)を使って転落防止効果がどのように異なるのか調べた。その結果、股及び腰・肩の両側で上体を拘束する 5 点支持式は、股と腰の両側で拘束し上体が自由な 3 点支持式に比べ、転落防止には有効と考えられた。また、両方式の装備の状況を調べると、5 点支持式が 2 銘柄なのに対し、3 点支持式が 8 銘柄と多かった。

写真1　5 点支持式(例)

写真2　3 点支持式(例)

2) **一部の銘柄においては、走行中にハンドルと本体にできるすき間やフロントバーの脱着時のすき間で、乳幼児の手や指を挟む可能性があった**

乳幼児が手や指などを挟んで怪我をした事故が発生している。そこで危険な箇所がないか擬似指(径 5mm)などを使用して調べた。その結果、背面・対面式で使用可能な 2 銘柄は、走行中にハンドルと本体にできるすき間に手や指を挟む可能性があったほか、取扱説明書の注意書きのとおり、背面・対面のハンドルを切り替えるときに肘かけ部のすき間で、手や指を挟む可能性があった。また、フロントバーを脱着できる 1 銘柄は、片側を外すともう一端の接続部にすき間ができ、手や指を挟む可能性があった。

写真3　ハンドルと本体の間にできたすき間(例)

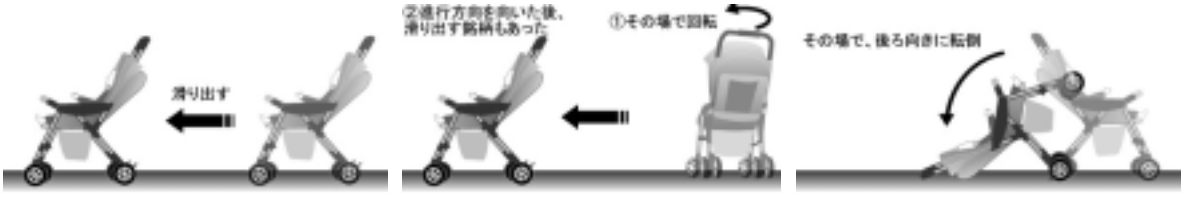
写真4　フロントバーの接続部にできたすき間

3) 停車時に使用するストッパーは装備されているが、急坂を走行するときに使用できる走行用のブレーキなどを装備しているものはなかった

坂道でのベビーカーの暴走事故が発生している。そこで、走行中のベビーカーを制動するためのブレーキなどが装備されているかどうか調べた。その結果、停車時にベビーカーを静止するためのストッパーはどの銘柄にも装備されていたが、走行時に使用できるブレーキを装備しているものはひとつもなかった。急な下り坂などでは、ベビーカーに引かれる状態で走行するようになり、妊婦や高齢者など歩行に支障を持った人が使用する場合などは、速度上昇を抑制する制動装置や手動ブレーキなどが必要な場合も考えられた。

4) 電車・バスが急停止した場合には、ベビーカーの滑り出しや転倒などの危険性があった

電車やバスでは、ベビーカーを折りたたみ、乳幼児を抱えて、乗車するよう指導する交通機関が多かったが、最近では、利用者の自己責任で乳幼児が乗ったままでも乗車を可能とする交通機関も出てきた。そこで、電車やバスの停止時に相当する減速のときに、ベビーカーが動き出すなどの可能性がないか調べた。その結果、ストッパーをかければ電車の停止時に相当する減速では、ベビーカーが動く可能性は少なかったが、バスでは、ベビーカーの置き方によって滑り出したり、回転する可能性があった。また、電車やバスが急停止した場合には、進行方向に対し逆向きに置くと後方へ転倒するなどの危険性があった。



進行方向に設置　　横方向に設置　　後方向に設置

図2　急停止時などでのベビーカーの挙動

5) 段差のある周回路を 50km 連続走行したとき、車輪の取付け角度の変形などを生じたものがあった

「2 ヶ月使用したら、後部車輪が変形した」などの耐久性に関する相談が寄せられている。そこで、走行などの耐久性について調べた。その結果、段差のある周回路を 50km 連続走行したとき、小型・軽量をうたった参考品は、シートの一部が破れたほか、後輪の取付け角度が変形し回転しづらくなる不具合が発生した。

6) ちょっとした段差などで、乳幼児を乗せたままベビーカーを持ち運ぶことを可能とするものはなかった

「子供を乗せたまま階段を昇降中､乳母車のガードの片側が外れてバランスを崩した」などの事例がある。乳幼児を乗せてベビーカーを持ち上げることは、足元が見えないなど危険なので、国内メーカーは取扱説明書で禁止している。しかし、ベビーカーを持ち運んでいる実態や、数段程度の階段などでは、その都度折りたたんで運ぶより安全なときもある。そこで、ベビーカーの持ち上げ方を調べたが、ハンドルとフロントバーを使用して持ち上げることが考えられた。また、ベビーカーの持ち運びがしやすいように、専用の取っ手などを装備したものはなかった。

5. 消費者へのアドバイス

1) 股・腰・肩ベルトで上体全体を拘束する 5 点支持式のシートベルトは、転落防止に有効と考えられるので、対象年齢や使い勝手なども考慮して検討するとよい

乳幼児の転落事故を防止するためには、ベルトの緩みなどがないよう正しくシートベルトをするとともに保護者が目を離さないように注意しなければならない。

シートベルトには、股ベルトと両側の腰ベルトで拘束する 3 点支持式と股ベルトと両側の腰・肩ベルトで上体全体を拘束する 5 点支持式とがある。肩ベルトにより上体全体を拘束する 5 点支持式は、乳幼児の抜け出しや転落防止には、より有効と考えられるので、対象年齢や使い勝手なども考慮して選ぶとよい。

2) ハンドルやフロントバーの操作時にすき間ができるものがあり、手や指を挟む可能性があるので十分注意する

乳幼児が乗車したまま背面・対面のハンドルを切り替えできるものの中には、走行中にハンドルと本体の間にすき間ができるものがあったほか、取扱説明書に注意書きがあるとおり、切り替え操作の際にすき間ができ手や指を挟む恐れがあったので十分注意する。また、フロントバーを脱着するときに、フロントバーの接続部にすき間ができるものがあり、手や指を挟む可能性があったので注意する。

3) 折りたたまずに乗車できる一部の電車などでは、車輪のストッパーをかけても急停止したときには転倒するなどの危険性が考えられるのでしっかり支える

従来、電車やバスでは、ベビーカーを折りたたみ、乳幼児を抱えて、乗車するよう指導する交通機関が多かった。最近、電車やバスなどの交通機関の中には、利用者の自己責任においてベビーカーを折りたたまずに乳幼児が乗ったままでも乗車可能となったところもある。テストした結果、電車の停止ではストッパーをかければ動くことは少ないと思われるが、バスも含め急停止したときには、転倒するなどの危険性もあったので、乗車時はしっかり支える必要がある。また、乗車にあたっては交通機関が定めたルールがあるので遵守する。

4) 折りたたんだときの大きさや重さが異なるほか、構造や使用形態なども銘柄によって異なるので対象年齢などを考慮の上、店頭で確かめて選ぶとよい

持ち運びのしやすさや保管スペースの大きさを考慮すると、前後・左右に折りたたまれるタイプが軽量・コンパクトであった。また、銘柄によっては、リクライニング機構やハンドルの高さ調節の有無などの構造が異なるほか、乳幼児と対面した形で走行するのか、または背面を見ながら走行するのかなどの使用形態も違っていた。対象年齢などを考慮の上、店頭で確かめて選ぶとよい。

6. 業界への要望

1) ハンドルと本体の間やフロントバー脱着時に生じたすき間で手や指などを挟む可能性があったので改善を要望する

対面または背面式で使用可能な 2 銘柄は、走行中や背面・対面のハンドル切り替え時に生じるハンドルと本体のすき間で手や指を挟む可能性があった。また、フロントバーを脱着できる 1 銘柄は、片側を外すと、もう一端の接続部にすき間を生じ、手や指を挟む可能性があった。使用中にすき間を生じ、手や指挟みなどの危険性があるものは改善を要望する。

2) 転落防止に有効な 5 点支持式シートベルトや急坂で安全に走行するためのブレーキ等を装備したものを消費者が選択できるよう商品の充実を要望する

転落防止のためのシートベルトは、股及び腰・肩で拘束する 5 点支持式が股・腰で拘束する 3 点支持式に比べ、転落防止効果が高いと考えられた。しかし、5 点支持式を装備した銘柄は、3 点支持式に比べ少ないので、消費者が 5 点支持式も選べるよう商品の充実を要望する。その他、坂道でのベビーカーの暴走事故などが発生しているが、走行用のブレーキや自動で速度を制御する機能などを装備しているものはなかった。坂道で使用する機会の多い人や妊婦や高齢者など歩行に支障を持った人が坂道を走行するときは、ブレーキ等の安全機能が必要となるので消費者が選択できるように商品の充実を要望する。

3) 乳幼児を乗せたままベビーカーを持ち運ぶことは危険なので避けるべきであるが、使用実態を考慮した現実的な商品造りを要望する

乳幼児を乗せたままベビーカーを持ち上げて運ぶことは、足元が見えないなど危険なので避けるべきであり、国内メーカーの銘柄では禁止している。しかし、国外メーカーの銘柄は、そのような記載がなかった。

一方、ベビーカーの持ち運びを行っている人が少なくないことや、数段程度の階段など安全に持ち運べる状況であれば、乳幼児を抱えて、その都度折りたたんで運ぶより現実的なときもある。使用実態を考慮して、安全に持ち運べるように専用の取っ手を付けたり、持ち運びに使用する可能性が高いフロントバーの強度を十分なものとするなどの商品造りを要望する。

- **要望先**

  全国ベビー&シルバー用品連合会

- **情報提供先**

  内閣府 国民生活局 消費者調整課
  経済産業省 商務情報政策局 消費経済部 消費経済政策課
  国土交通省 総合政策局 交通消費者行政課

本件問合せ先
商品テスト部：042-758-3165

<title>ベビーカーの安全性（概要）</title>